清（1644年－1911年）―年表―

1644年　李自成、西安を落とし、国号を大順と定め、順王を称す。日本、1639年　鎖国完成。
4月、崇禎帝（すうていてい）、景山で自殺。李自成、北京を占領し、**明滅亡。**
6月、清と呉三桂軍、華北で李自成軍を破り北京に入城。李自成軍、北京を放棄。
順治帝即位し、北京紫禁城（しきんじょう）の玉座に座り、**清、中国王朝となる。**南京に福王立つ。
1645年　清、南京を攻める。福王政権滅ぶ。福建に唐王立つ。紹興に魯王立つ。李自成殺さる。
1646年　唐王政権滅ぶ。魯王政権滅ぶ。肇慶に桂王（永明王）立つ。
1661年　順治帝没、**康熙帝即位。清、中国統一。**桂王捕らえられ、南明政権全滅。鄭成功台湾占拠。
1662年　桂王処刑される。鄭成功没す。1665年ロバート・フック細胞発見。1669年レンブラント没。
1673年　呉三桂挙兵、三藩の乱おこる。1675年フェルメール没。1676年レーウェンフック細菌発見。
1681年、呉三桂自殺、三藩の乱平定さる。
1683年　台湾平定される。1684年　傅山没。
1687年　ニュートン「万有引力の法則」発見。1705年？朱耷没。
1689年　**ネルチンスク条約締結。**芭蕉『奥の細道』1702年討ち入り。
1716年　『康熙字典』成る。尾形光琳没。1707年　石濤没
1720年　清、チベットを支配する。広東に公行創設。
1722年　康熙帝没、**雍正帝即位。**1725年『古今図書集成』
1735年　雍正帝没、**乾隆帝即位。**1727年　**キャフタ条約締結。**
1740年　苗族の乱
1747年　大金川・小金川の乱（～1749）『三希堂法帖』
1750年　チベットの乱平定。J・S・バッハ没。
1757年　外国貿易を広東一港に限定。ジュンガルを滅ぼす。
1759年　回部を平定し、新疆を置く。**金石学**の発展。英国によるインドの植民地化。
1760年　英国の**産業革命**（～1840）1763年　金農没。1764年　鄭燮没。
1765年　ビルマに出兵（～1769）　英国のワット、蒸気機関を改良。
1767年　英国でジェニー紡績機発明。篆書・隷書の流行。
1769年　仏国でキューニョーが世界初の自動車（蒸気自動車）
1772年　『四庫全書』の編纂開始。
1776年　**アメリカ独立宣言**公布。　**碑学派**の台頭。
1781年　甘粛の回教徒の乱おこる。
1782年　『四庫全書』成る。1783年世界初の蒸気船（仏のダバン）
1786年　台湾の林爽文の乱おこる。
1787年　アメリカ、合衆国憲法制定。
1788年　ベトナムに出兵（～1789）
1789年　米合衆国政府成立、ワシントン初代大統領に。
7月14日**フランス革命**（～1799年11月9日）
1791年　モーツァルト没。
1793年　イギリス全権大使マカートニー北京に来る。
1796年　乾隆帝退位し、**嘉慶帝即位。**白蓮教徒の乱（～1804）
1798年　リトグラフ発明（独）1799年ボルタ、電池を発明。電気の存在を証明した。
1804年　ナポレオン、皇帝となる。劉墉没。1802年王文治没。1805年　鄧石如没。
英国で世界初の蒸気機関車（R・トレビシック）1812年蒸気機関による印刷機発明（独）
1806年　神聖ローマ帝国滅亡。　英国で機械打ちこわし運動起こる（1811～17年）
1807年　蒸気船クローモント号ハドソン河を航行。ラテンアメリカに独立運動起こる。1815年　伊秉綬没。

清の領土図　康熙帝（1661～1722年）の頃。

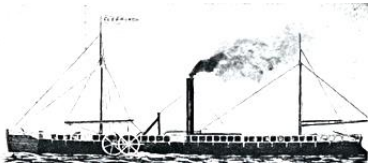
フックの顕微鏡

自画像（1669年）
レンブラント

世界初の蒸気自動車

世界初の蒸気機関車（ペナダレン号）

ジェニー紡績機


クラーモント号（米国のロバート・フルトン）

1816年　イギリス全権大使アマースト北京に来る。1818年　翁方綱没。

1821年　**道光帝即位。**1822年　陳鴻寿没。

1827年　この頃よりアヘン輸入により入超、銀流出はじまる。

1832年　ベートーヴェン没。ニエプス（仏）、写真の発明。

1835年　北斎「富嶽三十六景」

1839年　電信機の発明（モールス）1836年『芸舟双楫』

1840年　6月、林則徐、没収アヘンを廃棄。ダゲレオタイプ（仏）

アヘン戦争。6月、イギリス軍広東封鎖。チューブ入り絵具発明。

1842年　英・仏・独で製紙業が手漉きから機械漉きに（1837～45）1841年ポー『モルグ街の殺人』

1844年　8月、南京条約調印（香港島をイギリスに割譲）。

1845年　7月、清米望厦条約。10月、清仏黄埔条約。

1847年　ワーグナー「タンホイザー」1846年米国のホー輪転印刷機製作。

1848年　ツルゲーネフ『猟人日記』（～52）

1851年　マルクス、エンゲルス『共産党宣言』

1851－1864年　**咸豊帝即位。**1849年　阮元没。

1853年　**太平天国の乱。**

3月、太平天国南京占領。

7月黒船、ペリー、浦賀来航。クリミア戦争（～56）

1854年　3月、再びペリー来航。日米和親条約締結。鎖国終る。

1856年　10月アロー号事件発生。1857年仏国のスコット蓄音機発明。

1858年　清露アイグン条約締結。1857年セポイの反乱。

1859年　ダーウィン『種の起源』9月、安政の大獄。

1860年　6月、露・米・英・仏と天津条約締結。

10月、英仏連合軍北京占領。北京条約締結。

リンカーン、大統領に就任。

1861年　洋務運動開始。　4月、アメリカ、南北戦争開始（～65）

1861年　イタリア統一完成。

1862年　**同治帝即位。西太后**の垂簾聴政。

1864年　7月、南京陥落、**太平天国滅亡**。9月、四国連合艦隊下関砲撃。

1865年　メンデル「遺伝の法則」　トルストイ『戦争と平和』（～69）

1866年　ドストエフスキー『罪と罰』

1867年　ダイナマイト発明。パスツール、病原微生物発見。マルクス『資本論』。

1868年　1月、**明治維新**。明治元年。1867年　米国でタイプライター実用化。

1869年　11月、スエズ運河開通。東京首都となる。ミーシャーがDNA発見。

1870年　普仏戦争。世界初のガソリン自動車発明（マルクス）呉譲之没。

1871年　9月、日清修好条規調印。ドイツ統一完成。パリ・コンミューン。

1872年　新橋～横浜間に鉄道開通。全国に小学校をつくる。

東京、大阪間に電信開通。太陽暦採用。1873年　何紹基没。

1874年　第1回印象派展（パリ）

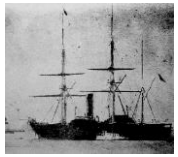
1875年　**光緒帝即位。**

1876年　2月、日朝修好条規締結。米国のベル、電話機発明。

1877年　4月、在外公館始まる。エジソンの蓄音機改良。

1879年　4月、琉球藩を廃止し沖縄県設置。1878年、スワン白熱電球発明。

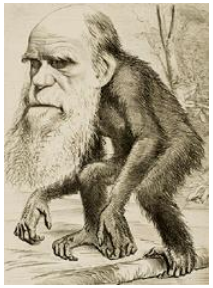
1880年　ロダン「考える人」発表。楊守敬来日。


黒船　サスケハナ

電信機機

ホー型輪転印刷機

現存最古の写真・1825年頃
（仏国のニエプス作）


ダーウィンの**進化論**

蓄音機（エジソン）

白熱電球

モネ　印象、日の出

DNA

タイプライター
（1880年代）

ベルと電話機

マルクスカー

コロー（1864年）
「モルトフォンテーヌの思い出」

ミレー　落穂拾い（1857年）

E・A・ポー
ダゲレオタイプで撮影した肖像写真。（1848年）

北斎「凱風快晴」

ベートーヴェンのデスマスク

1881年　2月、清露イリ条約締結。

1882年　8月、朝鮮へ日清両国出兵。コッホ結核菌発見。

1884年　8月、清仏戦争始まる。趙之謙没。

1885年　6月、清仏、天津条約締結。

1886年　7月、英清ビルマ条約締結。1月、ビルマ、イギリス植民地に。

1887年　東京に電灯がつく。この頃フロイト「精神分析」。ヘルツ、電波発見。

1888年　10月、康有為、第一上書。ニーチェ『この人を見よ』

1889年　2月、大日本帝国憲法発布。東海道線全線開通。1891年ゴッホ没。

1894年　7月、**日清戦争開始（～95）**　7月、日本軍、朝鮮王宮占領。

1895年　4月、下関条約調印。三国干渉。5月、康有為ら公車上書。
フランスで映画の発明。X線を発見。マルコーニ無線電信発明。
6月、日本軍、台北を占領し、台湾総督府設置。

1896年　ウラン放射能の発見（仏国のベクレル）楊峴没。

1898年　3月、独、膠州湾、ロシア、大連・旅順を租借。
4月、仏、広州湾租借。7月、英、威海衛租借。
9月、戊戌政変、西太后訓政へ。キュリー夫妻ラジウム発見。

1899年　4月、山東で義和団事件。**甲骨文発見**される。

1900年　6月、義和団、北京列国公使館包囲、清朝列国に宣戦。量子論。スタイン（英）中央アジア探検。

1901年　9月、辛丑条約締結。　**西域（敦煌・楼蘭など）で肉筆資料発見。**ヘディン（ス）楼蘭発掘。

1902年　8月、学堂章程発布。魯迅、日本に留学。1月、日英同盟成立。呉大澂没。大谷光瑞、第一次探検。

1903年　ロシア軍、満洲を占領。ライト兄弟飛行機を発明。

1904年　2月、**日露戦争勃発（～05）**、中国は中立宣言。米国のルーベル、紙への平版オフセット印刷発明。

1905年　8月、東京で中国同盟会成立。9月、科挙廃止。9月、ポーツマス条約調印。
アインシュタイン「特殊相対性理論」。夏目漱石『我輩は猫である』

1906年　4月、京漢鉄道全線開通。6月、日本、南満洲鉄道株式会社設立。セザンヌ没。

1907年　革命派の武力蜂起相次ぐ。セザンヌの没後初の回顧展。リルケ『新詩集』

1908年　**宣統帝即位。**各省で国会開設運動。プラスチックの発明。ペリオ（仏）敦煌発掘開始。

1909年　伊藤博文ハルピンで暗殺される。1908年頃、シェーンベルクの無調音楽。

1910年　8月、日本、朝鮮を併合。カンディンスキーによる最初の抽象絵画。
石川啄木『一握の砂』『芸術における精神的なものについて』カンディンスキー（1911年）

1911年　10月、**辛亥革命。清滅亡。**アムンゼン南極探検。『和声学』シェーンベルク。

1912年　1月、**中華民国南京臨時政府成立。**孫文、臨時大総統に就任。
3月11日中華民国臨時約法公布（アジアで最初の共和制国家の憲法）。
袁世凱、北京で臨時大総統に就任。日本、大正元年　カフカ『変身』

1913年　9月、第2革命敗北し、孫文ら日本へ。
プルースト『失われた時を求めて』第一巻刊行。呉昌碩

1914年　7月、孫文、東京で中華革命党を結成。11月、日本軍、青島占領。
パナマ運河開通。7月、**第一次世界大戦開始。**康有為

1915年　1月、日本、対華21ヵ条要求提出。12月、反袁世凱の第3革命勃発。
アインシュタイン「一般相対性理論」。芥川龍之介『羅生門』。楊守敬没。

1916年　6月、袁世凱死去。軍閥割拠の時代へ。
「ダダ」が発生する。ジェームス・ジョイス『若き芸術家の肖像』

1917年　**ロシア革命。**

考える人

H・ベクレル

マルコーニの無線機

世界初の映画（1895年）
リュミエール兄弟製作

敦煌、莫高窟の調査中のポール・ペリオ（1908年）

アインシュタイン

世界初の有人飛行（1903年12月17日）
ライトフライヤー号

セザンヌ「リンゴとオレンジ」（1900年ころ）

カンディンスキー「水彩による始めての抽象画」（1910年）

アルプ「鳥と蝶の埋葬、ツァラの肖像
1917年　ダダイズムの作例。

清代の眺望１（清朝中期まで）

清代は、人口わずか数十万の騎馬民族である**満州族**が、人口数億の他民族を支配した時代である。

清朝は、八割以上を占める漢民族のほかに、満州族・モンゴル族・チベット族・ミャオ族・回族・ウィグル族などの民族からなる**多民族国家**であり、明朝の政治制度や社会体制をそっくり引き継ぐことで漢民族を支配したが、弁髪の強制などに、支配者としての自民族利益第一の顔が表れている。十二代、約３００年続いた中国史上最大の国家である。漢人文化に同化することを、中国統治の基本とした。

中国の東北地方には、伝説によると、紀元前37年に、朱蒙が建国したと伝えられる高句麗があった。高句麗は、668年に唐と新羅の連合軍によって滅ぼされ、そのあとに渤海国が興った。渤海国は10世紀に遼（契丹族の国）によって滅ぼされた。その後、12世紀に女真族が遼を滅ぼし、金を建国した。金は、中原を攻め、北宋を倒し、西夏と南宋を朝貢国としたが、１２３４年、モンゴル帝国によって滅ぼされた。

17世紀のはじめ、愛新覚羅氏出身の**ヌルハチ**が、多くの部族に分かれて争っていた女真族を統一した。ヌルハチは、１６１６年に帝位につき、金の復興の願いを込めて、国号を金（12世紀の金朝と区別するため後金ともいう）とし、民族名を女真から満州族に改め、満州文字を制定し、１６１８年、明に対し宣戦布告し、明帝国からの独立をめざした。ヌルハチの第八子の**ホンタイジ**は、朝鮮やモンゴル族を制圧し、帝位について、１６３６年、国号を金から清に改めた。中国東北部を制圧したホンタイジは山海関で明軍と対峙したまま、１６４３年急死した。ホンタイジの第九子の**順治帝**が、５歳で帝位につき、叔父のドルゴンが摂政となった。

１６４４年、明の崇禎帝が自殺し、李自成が北京を奪い、明朝は滅んだ。清軍は、山海関を開城して清に投降した呉三桂とともに北京を攻め、李自成軍に大勝し、北京を占領した。１６５０年ドルゴンが死に、13歳の順治帝による親政が始まった。１６５９年、鄭成功軍に勝ち、国内をほぼ平定したが、１６６１年24歳で急死した。

初代皇帝
ヌルハチ

第２代皇帝
ホンタイジ

第３代皇帝
順治帝

※清の王室の名字である**「愛新覚羅」**（アイシンギョロ）とは、「金の末裔」という意味。

「三世の春」清朝の黄金時代（明朝以上に中国的な皇帝たち）

１６６１年、順治帝の第三子の**康熙帝**が８歳で即位した。１６６９年、専横な大臣のオボイを投獄して、14歳で親政を始めた。康熙帝は唐代の太宗（李世民）と並ぶ中国歴代最高の名君といわれる。１６８１年、三藩の乱を鎮圧し、１６８３年台湾を制圧して、中国を完全に**統一**した。１６８９年ロシア帝国と**ネルチンスク条約**を結び、始めて国境を決め、外モンゴルを領土に加え、チベットを支配し、ジュンガルの反乱を平定した。西洋の学問・技術や芸術に興味を持ち、学び、習得し、『康熙字典』なども編纂させた。１７２２年在位61年の冬、病で急死した。**雍正帝**は康熙帝の第４子で、44歳で即位した。在位は14年だけだが、税制改革、財政の建て直しなど、内政を固め、情報収集のための「軍機処」をつくり、揺るがぬ体制を築いた。文化的には『古今図書集成』などを完成させた。１７３５年秋、58歳で突然死した。死因は不明。雍正帝の第４子の**乾隆帝**が25歳で即位した。

乾隆帝の時代が清の最盛期である。在位60年の間に、中国史上最大の領土を得、経済力も中国史上頂点に達した。「三希堂」をつくり、10年の歳月をかけた『四庫全書』の編纂、故宮の文物の大半を蒐集し整理するなど、中国に対する功績は計り知れないが、中国の歴史はこの辺りを頂点にして下降線をたどることになる。

康熙帝・雍正帝・乾隆帝の時代の約１３０年余は、中国史上の最盛期であった。それは、「三世の春」（康雍乾盛世）と謳われるが、中国文明の最期の輝きであったともいわれている。中国の人口は、この時代まで、平均６千万人くらいであったが、康熙帝から乾隆帝の時代にかけて増え続け、１７９０年には３億になり、嘉慶帝のころには４億人を超え、さらに増え続け、清朝滅亡への芽を育てていくことにもなった。

清の最大版図

第４代皇帝
康熙帝

第５代皇帝
雍正帝

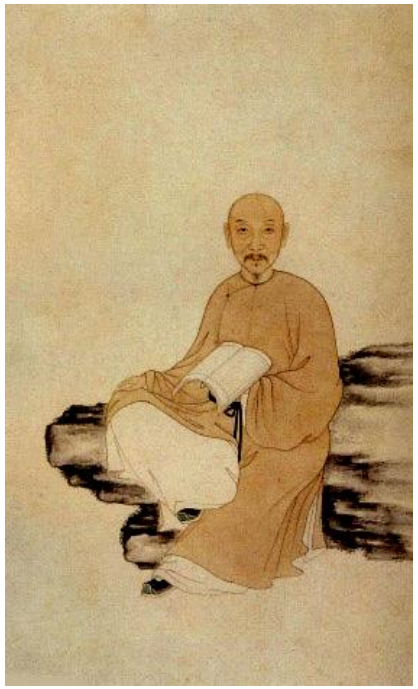
第６代皇帝
乾隆帝

第７代皇帝
嘉慶帝

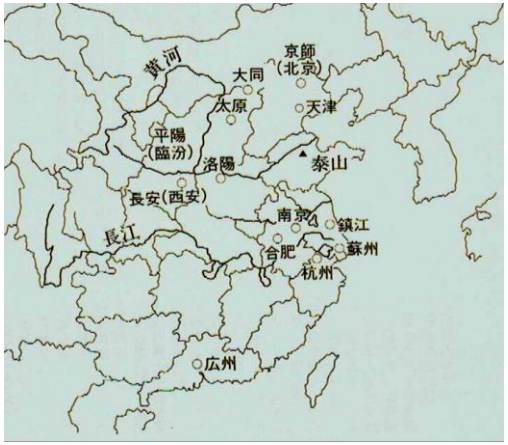
動乱の明末清初のつづき

傅山（ふざん）（明の万暦34年～清の康熙23年）（１６０６～１６８４年）

今の山西省太原市陽曲の人。名は鼎臣、のちに山と改名。字は青竹、のち青主、仁仲。号は、僑山、石道人、丹崖子、青羊庵主、朱衣道人など。道号を、真山、五峰道人など。明の遺民として、最期まで清に仕えなかった傅山は、清への抵抗運動のために、多くの名前を使ったと思われる。傅山は幼少から異常に賢かったらしく、一度目にした文字は必ず覚えたという伝説がある。傅一族は山西地方の富裕階級であり、大地主で、代々学者の家柄であった。七歳のころより、父（離垢）から学問や書の教養を与えられ、塾で厳しく教育された。十四歳で県学に入学し、十九歳で府学に入学した。二十二歳の時、長男の眉が産まれたが、二十六歳のとき、妻の張静君が亡くなった。傅山は生涯再婚せず眉を育てた。眉は成長して、父の芸術や生活の良き協力者となり、傅山の代作者として書画の注文をさばいた。このころ、農民反乱軍が山西に侵攻してくる。地主階級の傅山は、自衛のため、農民軍と戦うか、略奪され、流亡生活に入るしか生きる道はなかった。傅山が二十八歳のとき、袁継咸が山西提学僉事として太原に着任し、二年後、袁継咸は廃墟同然の三立書院を修復し、て、山西の選抜学生三百余人を自由に学ばせた。傅山は、三立書院に首席で入学し、政治にかかわることになる。飢饉や動乱のなかでも、傅山は学問修業に励み、１６４２年（傅山三十六歳）には、傅山は田舎の虹巣に別荘、霜紅龕を作り、読書生活の場とし、眉に学問・芸術を教えつつ、自分も同年夏の郷試を受験したが、落第した。その後は、大地主出身の身分を隠し、政治活動をするために道士の姿になった。１６４３年（傅山三十七歳）のとき、李自成軍が山西に侵入する。傅山は、明の将軍たちと諮って、李自成軍と戦ったが、無駄なあがきに過ぎなかった。１６４４年、崇禎帝は縊死し、李自成は北京に入城し、明朝は亡んだ。この間、傅山は財産を失い、一年の間、反乱軍から逃れ、清軍に抵抗するため、山西の東部や北部を流浪していたようである。１６４５年から１６５３年の間、動乱の中で多くを失った傅山の生活は窮迫していた。反清活動のなかで師や友人をつぎつぎに失い、頼る人もいなくなった傅山は、生活のため医者（後世に残るほどの医学者であった）になり、薬を売って、生活費を稼ぎ、横穴住宅に棲み、母を養っていた。１６５４年（傅山四十八歳）反清の軍事行動を起そうとして逮捕される。翌年釈放され、傅山の反清抵抗はまだつづいたようだが、鄭成功が南京で敗れ、清の統治がゆるぎないものになって行くにしたがい反清運動は衰えていった。同様に、傅山も政治への関心を失っていった。流浪の果て、故郷の太原に帰って間もないころ、１６６０年（傅山五十四歳）の冬、母が亡くなった。１６６３年ころから、清初の大学者の顧炎武や芸術家らが傅山を訪ねてくるようになり、学者や芸術家との交流が始まり、学者芸術家としての名声が広まっていった。傅山は１６７４年（傅山六十八歳）に泰山に登った。その旅の後、彼を支えた甥の仁が死んだ。１６７８年（傅山七十二歳）、政府が博学鴻詞科を受験するように命じ、病気を理由に試験を受けなかった傅山を北京に連行したが、それでも受験しなかった。政府はさらに、中書舎人として待遇するので、皇帝に拝謝の礼をとるようにと強制したが、傅山が命をかけて抵抗したので、政府もついにあきらめ、傅山は永遠に自由になった。１６８４年（傅山七十八歳）、五十八歳で最愛の息子眉が死んだ。その四ヵ月後、後を追うように傅山は亡くなった。



傅山肖像（清代学者象伝）



中国地図　部分

傅山の作品

（傅山は書、画、詩、散文、戯曲と文学・芸術に才能を発揮したが、書名が抜きんでていた。）

傅山は自分の学書経験について次のように述べている。

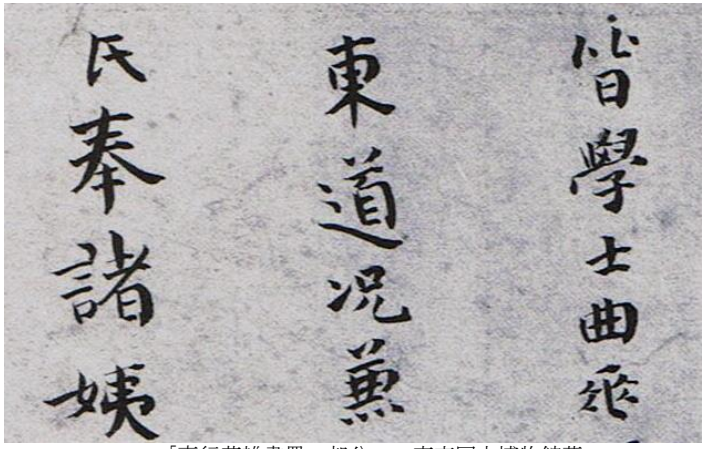
「私は八、九歳で鍾繇を臨書したが似なかった。やや長じて、たとえば東晋の『黄庭経』『孝女曹娥碑』『楽毅論』『東方朔画讃』『洛神賦十三行』、下って唐の『破邪論序』など臨書しないものはなかったが、何一つ近似するものはなかった。最後に顔真卿の『顔氏家廟碑』を写したところ、ほぼその支離を得、また遡って『争坐位稿』を臨書してみると、すこぶるこれに似てきた。また進んで『蘭亭序』を臨書してみると、その神情は得られなかったものの、しだいにこの技のあらましがわかってきた。」（傅山『家訓』）

幼少の頃から魏の鍾繇、東晋の二王の小楷、唐の虞世南の小楷など、また王羲之・顔真卿の書を、書の基本として学習していたようである。これらの法帖類は、傅家に代々伝来したもののようである。

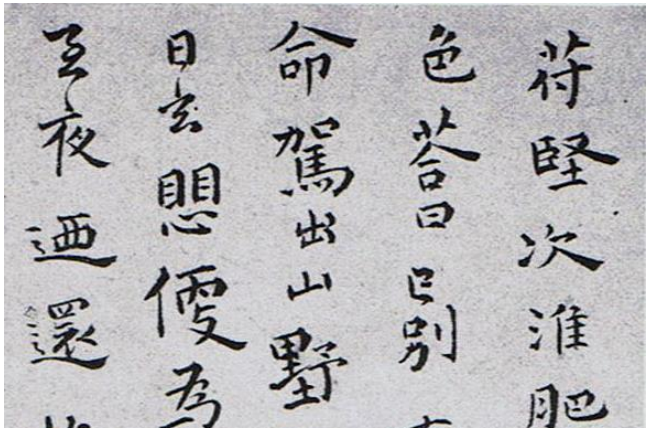
傅山は生涯にわたって古書法を尊重しているが、それは、傅家の伝統でもあったようだ。

篆隷楷行草すべてに通じていた傅山の書作品は、小楷作品、長条幅連綿行草書、異様な篆書に大別できる。

小楷作品



「真行草雑書冊」部分　東京国立博物館蔵



「行書小楷叢冊」部分　東京国立博物館蔵

「真行草雑書冊」紙本。各23.0×13.7㎝。淡い界線のある素紙に詩文を書いたもの。全十二紙、各紙五行。

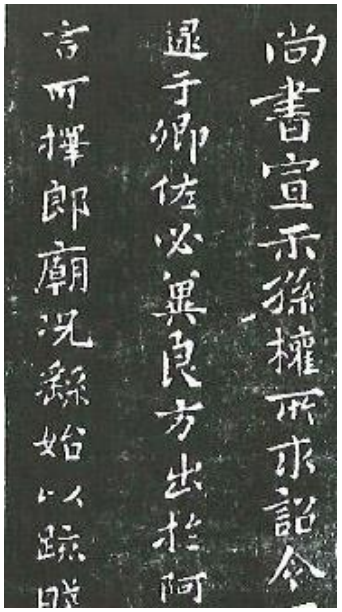
図版は「皆學士曲垂、東道況兼、氏奉諸姨」。

傅山の小楷（細楷）は魏晋唐の小楷の名品を習ったものだが、雰囲気は、二王よりも鍾繇や顔真卿に近いと感じられる。

字形は、偏と旁を離して扁平、自然な右肩上がりで向勢。

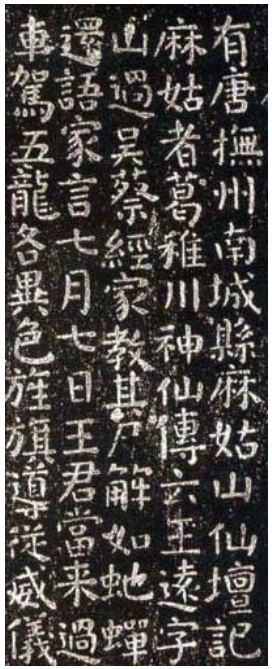
おおらかで真率な風体である。

「行書小楷叢冊」で目につく、横に張り出した右はらいには、章草の筆意が感じられる。



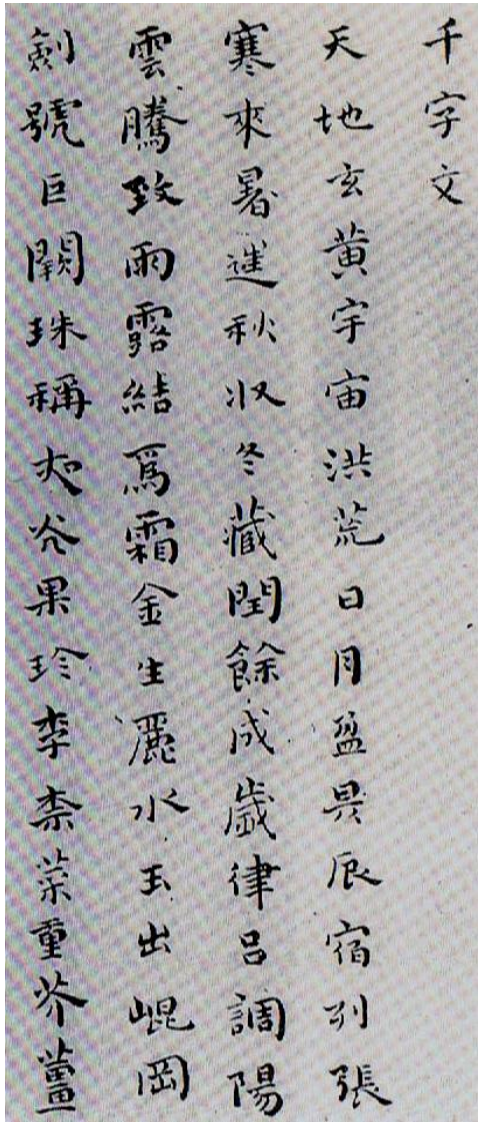
鍾繇「宣示表」部分
魏・221年頃

索靖「月儀帖」部分
西晋　章草の名品

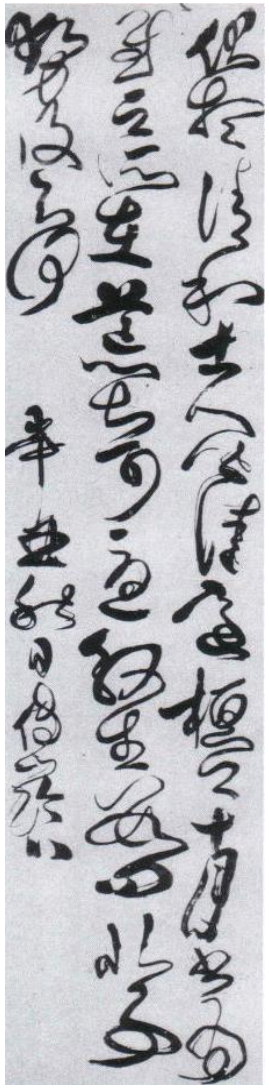


顔真卿「小字麻姑山仙壇記」
部分　唐代中頃

臨書

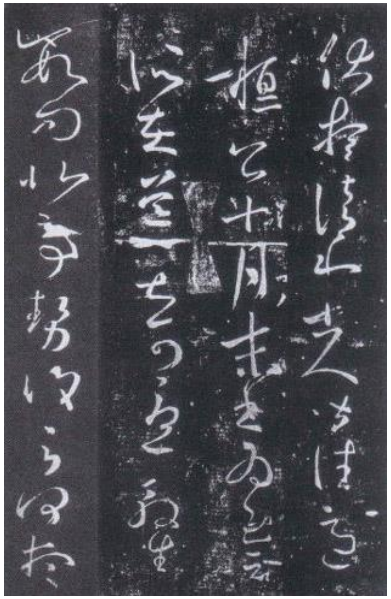


「千字文」部分



1661年（55歳）傅山臨

『淳化閣帖』巻8
王羲之「伏想清和帖」



『淳化閣帖』伏想清和帖

伏想清和士人皆佳。適桓公十月末書。為慰。云所在荒。甚可憂。殷生数問。北事勢復云何。（想安西以至。能数面不。或云頓歴陽。爾耶。無縁同為歎。遅知問。）・・・辛丑秋日傅山臨

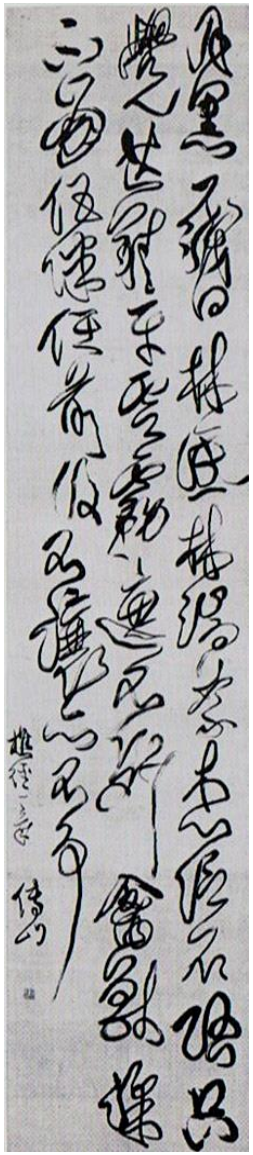
伏して想うに、清和にして　士人　皆な佳なら ん。適たま桓公の十月末の書あり、慰と為す。所在荒ると云う。甚だ憂う可し。・・・・・・・

傅山臨王羲之「知欲東帖」
東京国立博物館蔵
紙本　154×47.6㎝

『淳化閣帖』巻10　知欲東帖

知欲東。先期共至謝吳處。云何欲行。想忘耳。過此如命。

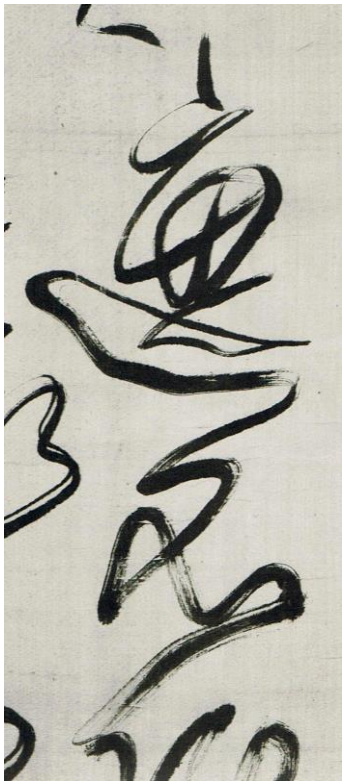
長条幅連綿行草作品



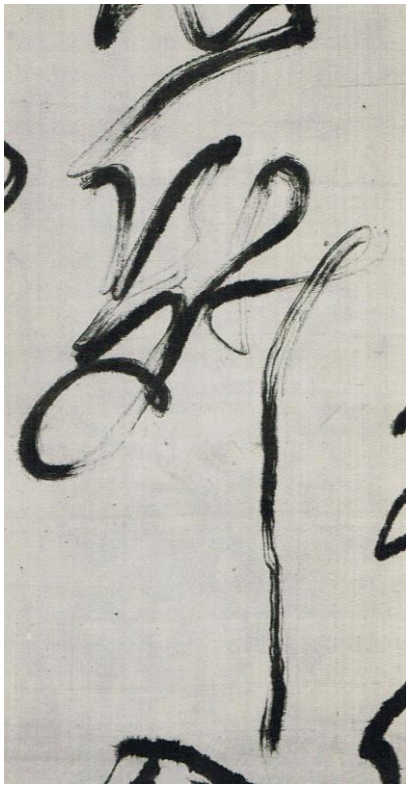
「草書五言律詩軸」絹本
203×45㎝　個人蔵

月黒　一

一綫白



遮不

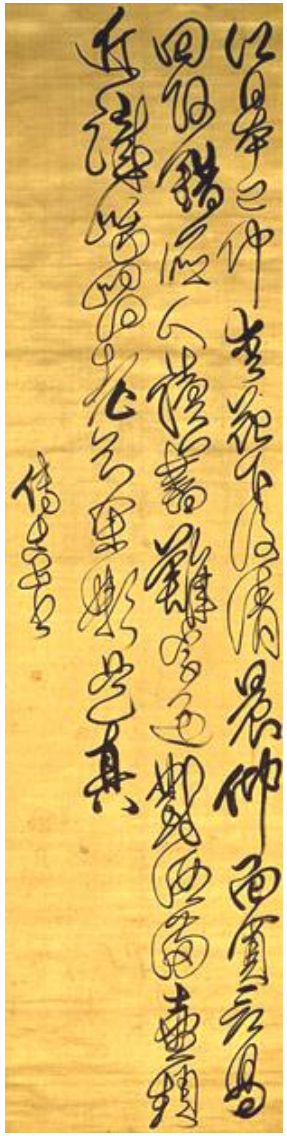


断

月黒く　一線白し、林底　林端縈る。
木心　石路に信せ、只だ覚ゆ　芒鞋の
平らかなるを。雲霧　遮れども断え
ず、禽獣　蹂むも崩れず。侶伴　前後
に任せ、譲らず　亦た争わず。
樵径一章。傅山。

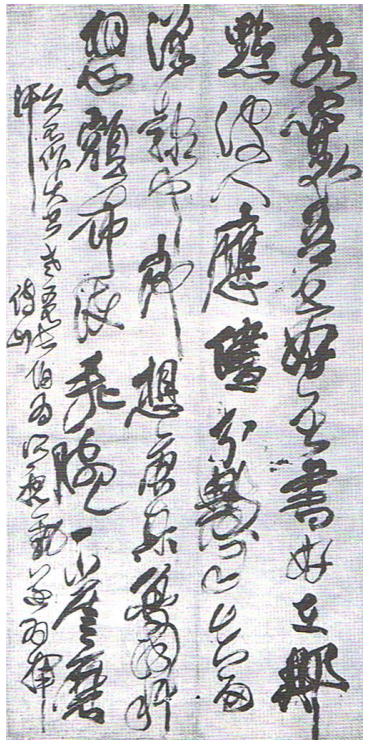
「月は暗いが一筋の道は白く、林の彼
方、林の端までまつわるように続く。
木の心で石の路をたどれば、ただわら
じが平らかであるのを感じる。
雲や霧がさえぎっても断ちきれず、
禽獣はゆっくりふみ歩く。
連れだつ仲間はそれぞれ前と後に、
譲りもせず争いもせずに行く。
樵径一章。傅山。」（福本雅一氏訳）

『霜紅龕集』巻五に入っている自作詩
の「樵径」の一章を連綿の狂草で書い
た壮年期の作と思われる。
傅山独特の、筆を引きずる書法である。
伝統にとらわれない自由な精神と気力
が漲っている。
渇筆部も、厚みのある深い線質が感じ
られるのは、直筆、中鋒が基本的な筆
づかいだからであろう。
傅山のまぶたには、どこまでも続く道
が、山水画のように浮かんでいたので
はないだろうか。
自然な墨の潤渇と濃淡と運筆の緩急と
強弱が水墨画のような奥行きのある深
い世界を創り出しているようだ。
激しい表現にもかかわらず、線に柔ら
かさがあるのは絹に書かれているから
であろう。
まさに、傅山の気宇壮大な人間性を絵
に描いたような作品である。



「草書五言律詩軸」絁本
236×49.8㎝　東京国立博物館蔵

「草書七絶詩屏」（四幅）198.7×46.8㎝上海博物館蔵



「行草五言律詩軸」

「草書七絶」
ふくやま書道美術館蔵

「行草七絶句軸」
東京国立博物館蔵

傅山の詩文集『霜紅龕集』には書を論じた言葉が多い。その中の「字を作りて児孫に示す」より見てみよう。

「字を作るには先ず人を作る。人奇なれば字、自ら古なり」

「人を作る」とは、豊かな人間性を養うということか。

「奇」とは、凡庸でないということか。

「古」とは、風格があるということか。

「書は、むしろ拙なるも巧なることなかれ。むしろ醜なるも媚なることなかれ。むしろ支離なるも軽滑なることなかれ。むしろ真卒なるも按排することなかれ。そうすれば学書においてすでにおちいっている欠点を挽回することができるであろう」

「支離」とは、まとまりがないこと。

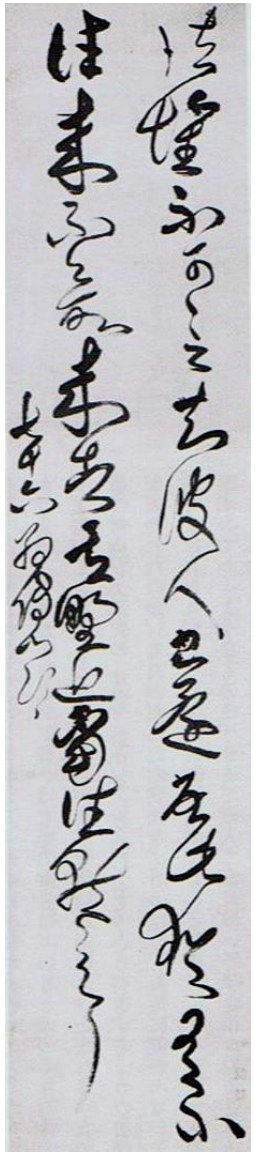
「軽滑」とは、かるがるしいこと。

「真率」とは、まじめで、飾り気がなく、つたないこと。

「按排」とは、表面的な上手の意。しかし、作為がいけないというなら、芸術は成立しないであろう。

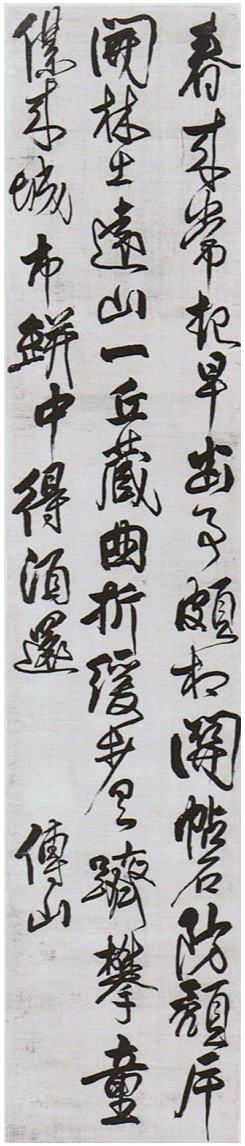
傅山は伝統主義者であり、王羲之の「蘭亭序」や顔真卿の「争坐位稿」や楷書が彼の書の基調になっている。その対極にあると思われる王献之や趙孟頫や董其昌の書を「媚」「奴」として嫌悪した。

長条幅以外の作品



「草書七絶句軸」

「七絶句幅」200.5×50㎝
遼寧省博物館蔵



「五律詩幅」杜甫「早起」
208.5×43.5㎝

「楷書六言聯」部分

「書画冊」

不褻（ふせつ）（巻二十五「家訓」より）

「楷書は篆隷八分から来ていなければ下品なスタイルとなり、観るに足らない。この篆隷八分の意が、章草で書かれた、皇象の「急就章」を見たときに、はっきりとわかった。・・・書法は**変化**するところまで至らなければ妙趣はあらわれないものだが、変化へは、**正**から入らなければならない。・・・正から入ることができさえすれば、おのずと卑賤野俗の気はなくなるのであるが、筆は熟さないよう・・・しかも褻（な）れることを忌むようにしなければならない・・・」

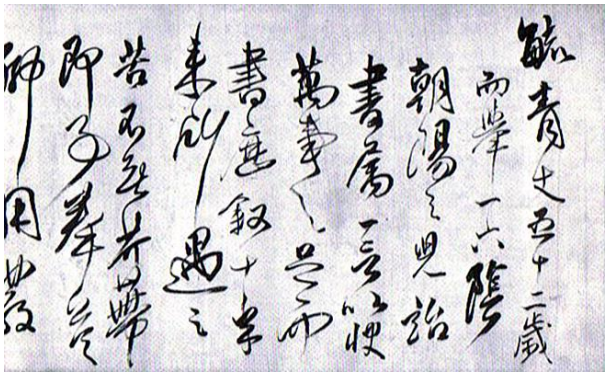
「**正**」とは何か。

「書法の妙趣もまた画と同じくひとえに正であることにすぎない。しかしながら正とは**板**ではなく**死**でもなく、ただ**古法**ということなのである・・・」

「正が極まれば**奇**が生ずるのであって・・・字の中の**天**の領域は造ることができない・・・」

「私の書法は捉われすぎていて、どうして字中の天を語ることなどできようか。この天には意識的には遭えないが、大酔した後、筆も、紙も、そして字も念頭にないというような状態になれば、もしかしたら遭えるかもしれない」（巻四十「雑記」五より）

「私は書法の佳境を極めてよく知っている。・・・このようにしようと望んでそのようにできるのは**工**（たくみ）である。このようにしようと望まないでそのようにできるのは**天**である。筆跡きわまらなくとも精神きわまれば天である。きわまるもきわまらないも天でないものはないのである。私はいったい何を言おうとしているのか？どうやらこのことを言うのは難しいようだ。（巻二十五「字訓」其八より）



「行草五言古詩巻」冒頭部分　絖本　25.4×336.8㎝

自作の五言古詩を書いたもの。
祝賀のために友人に贈ったものである。
明末清初の書家は紙本より絖本や綾本に書くことを好んだようである。

「青主先生書冊」部分　第21葉と22葉

「詩を作るには、才能と教養と気力とが必要であり、個性が発揮され、情感が漂い、真に自分の詩にならなければならない。・・・詩には風格がなければならない。・・・、詩は詩人の総体が表われたものである。」と傅山は考えていた。その傅山の、詩人としての最高の理想は、杜甫であった。

「杜甫は測るべからざるの才人・・・亦た但だに詩を以って読むを得ず。其の中の気、化して精微に、文士の心手の妙を極めて、常に目、之に在り」（巻二十五「詩訓」）

杜甫の詩の根幹となる、性格や感情、広い教養、を見極め、そのうえで、心して字句を学ばなければならない。と傅山は考えていた。

歴史について、傅山は、真実はすべて汲み取ることはできないと感じていた。

「作る者に心有り、看る者に心有り。作る者に時有り、看る者に時有り。変何ぞ尽くし易すからん、論何ぞ騰（は）するに勝（た）へん」

人の思いは、時間、場所、人によって、それぞれ異なる、と。芸術の表現の限界を感じながらも、傅山は表現をつづけるしかなかった。

「杜甫詩　奉陪鄭駙馬韋曲二首」

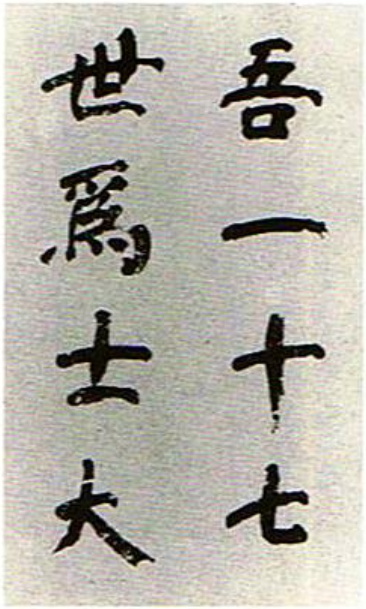
「楷書対幅」　晋祠文物管理所蔵

傅山が最も敬愛していた書家は、顔真卿である。

「作字示児孫」の「詩」で、子や孫たちに顔真卿を目標にして、顔真卿の気をそなえるべし、と教えている。

それは、顔真卿の書法というよりも、媚びたような書をつくる、王献之や董其昌や趙孟頫の対極にある書家として、また人としての生き方を尊敬し目標にもしたということではないだろうか。

異様な篆書



楷書冊　部分　山西省博物館蔵

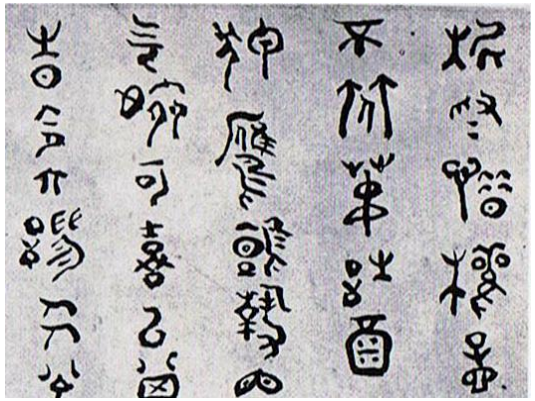
傅山は、当時はまだ注目されていなかった篆書や隷書の意に着目していた。『説文』などの字書に基づいて篆書を論じている。

「楷書は篆、隷、八分より来たらざれば、妙態観るに足らず・・・篆隷八分は但に布置・結構のみならず、全て運筆、転折・活発の処に在りて之を論ず」

「篆籀の従来を知らずして、字を講じ、書法を学ぶは、暗愚なり」

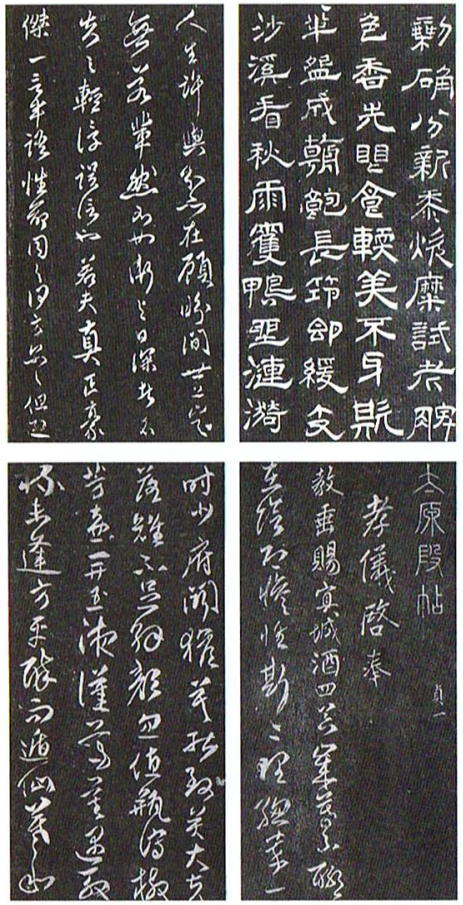
篆、隷は楷書だけでなく、書法すべての基盤となるものであると、傅山は考えていた。

「楷書は篆隷からどのようにうつりかわって来たかがわかっていなければ、うまく書けたと思っても、結局は俗格である。・・・古籀・楷・行・草・隷にはもともと区別がないことがわかろう」



「篆書草稿」部分

「遊仙詩」12 屏の 11、12　澄懐堂文庫蔵



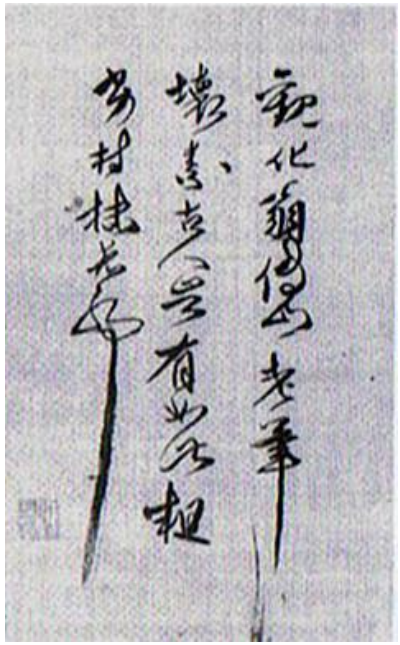
「太原段帖」部分

これは、傅山の門人の段叔玉が、自ら所蔵する傅山の真跡を 1683 年から 2 年かけて石に刻した傅山の専帖である。
傅山は人気のあった連綿草長条幅を、生活のため、やむを得ず書いたらしく、またその多くを傅眉と傅仁が代作したらしい。自分の本当の書はこの法帖に刻された書であると思っていたようである。

明末清初の遺民の多くが、黄道周や倪元璐のように、高級官僚だったが、傅山は官僚になることなく道士として隠遁しながら反清活動をつづけた特異な人である。傅山は当代一の思想家であり、医学者であり、書画だけでなく、詩文や散文や戯曲にも才能を発揮した人であった。

「竹柏図」173.6×55㎝

「雲山寂莫図」個人蔵



（右の画の部分）

「断崖飛帆図」絖本　大阪市立美術館蔵

傅山の絵画はあまり残っていない。

「自然界の鳥獣、小さな池、重畳たる山、美しい花、朽ちた葉、それらにはそれぞれ性情がある。そういう自然の性情に相対してお互いの性情が融和したとき、・・・いかに描くかが心の中にはっきりしてくるものだ」（『霜紅龕集』巻9「雑記」）と傅山は述べている。対象と自分が一致してはじめて、対象の精神を表現することができるようになる、というこの時代の文人の美術哲学である。